

						昭	年 月 日	飛行才九八戦隊 略歴 (靖才二一二〇三部隊)
14						13		
3	2	11	9	8	8	8		
						15	1	略歴
18	6	10	下	未				
杭州に移動	運城に移動	漢口に移動	安慶に移動	杭州に移動	三ヶ中隊 才一中隊(旧独飛三中) 才二中隊(旧独飛一五中) 才三中隊(旧両中隊混成)		独立飛行才三中隊(彰徳)及び独立飛行才一五中隊(南京)現地復帰に伴い、両部隊人員資材を基幹として北支彰徳において編成着手 上海王資において編成完結 本部	
								摘
								費

昭									
14			15				16		
3	4	7	11	3	8	10	6	8	11
<p>編成改正により一ヶ中隊（才三中隊）を転出（飛六〇戦）せしむ 彰徳に移動</p> <p>満州転進のため彰徳出発、同日奉天着（本隊飛行機） （地上移動部隊は本隊の移動の前後に亘り移動す） 敦化に移駐</p> <p>編成改正により一ヶ中隊増強（才三中隊）す</p> <p>南方作戦協力のため敦化出発、海口に転進 （全員空輸、地上部隊（整備）の主力敦化残置）</p> <p>満州復帰のため海口出発、同日敦化着爾後洋上訓練 平房に移動（関特演参加）</p> <p>北支転進のため平房出発、同日南苑着（本隊飛行機） （地上移動部隊は本隊移動の前後に亘り移動す）爾後軍城を前進基地 として重慶、蘭州攻撃</p> <p>南方作戦参加のため南苑出発、海南島海口に前進（本隊飛行機）</p>									

						昭
						16
8	6	5	3	1	12	12
中						4
(地上移動部隊は本隊移動の前後に直り北支出発、南方(仏印西貢)に向い直行す) 海南島海口出發、同日西貢着 (本隊西貢到着時地上移動部隊西貢に到着しあり) 爾後同地において作戦行動に入り、船団掩護竝に「マライ」爆撃(128) 「マライクアラベスト」に前進 「マライ、ケテル」に移動 爾後「マライ」作戦参加 泰国「ナコンサワン」に前進 (地上移動部隊は二月「ケテル」出發す) 「ビルマ、トングー」に前進 「マライ、スングパタニ」に移動 裝備改変のため一部人員(飛行機一五機)内地(岐阜)に帰る(所要日数約一ヶ月)						

昭										
19					18					17
2	1	10	7	6	5	3	12	10	9	
初 中					2					
<p>西貢、海南島、嘉義、鹿屋着（鹿児島県）</p> <p>内地防衛を命ぜられ「スングバタニ」出発</p> <p>「カルカッタ」爆撃戦参加</p> <p>本部及び展開部隊「マライ、スングバタニ」に移動果結</p>					<p>「スマトラ、メダン」（本部）移動一部を「スマトラ、ロクセウマウ」及び「スマトラ、アバン」に展開</p> <p>「マライ、スングバタニ」に転進</p> <p>泰国「ランバン」に移動</p> <p>泰国「ドムアン」に復帰</p>					<p>泰国「ドムアン」転進</p> <p>一ヶ中隊を「ビルマ、タボイ」に展開</p> <p>「ドムアン」本隊及び「タボイ」（展開）より「マライ、スングバタニ」に移動（地上部隊の一部を「ドムアン」に残留）</p>
<p>地上移動部隊は飛行機出発約三日後同地出発一丸、二、八門着、二、</p>										

1770

								昭	
								19	
8	7	3	2	11	10	7	6	2	
15	1	14-10							22
<p>一〇鹿屋着</p> <p>車令陸中才二四号により人員資材を増強編成改正し、海軍才五航空艦隊の指揮下に入る。爾後内地防空竝に雷撃訓練実施</p> <p>豊橋海軍基地において機種改変</p> <p>鹿屋基地に復帰</p> <p>鹿屋を基地、沖繩を前進基地として台湾沖航空戦に参加</p> <p>本航空戦において飛行機二五機、人員一八〇名を失い部隊の全戦力を失す</p> <p>人員資材を増強す</p> <p>大刀洗に移動</p> <p>沖繩作戦参加のため◎大刀洗◎宮崎◎鹿屋◎新川、小松及び朝鮮大邱群山に移動或は展開す(◎印は部隊長所在位置を示す)</p> <p>東方洋上攻撃戦参加のため、海軍才五航空艦隊の指揮を脱し、才二一飛行団司令部の指揮下に入り主力児玉に移動す</p> <p>主力児玉一部(地上部隊)大刀洗、新川において停戦</p>									

												昭 20
												10 8
												10 28
一〇代	九代	八代	七代	六代	五代	四代	三代	二代	初代	歴代部隊長	残務整理完了	主力見玉において復員
少佐	少佐	中佐	中佐	中佐	中佐	大佐	中佐	大佐	大佐			
宇木素道	高橋太郎	松村静馬	前野栄吉	榎崎五百刀	大阪順次	臼井茂樹	林勇蔵	吉田喜八郎	服部武士			

1772

									昭 19	年 月 日	飛行第一〇一戦隊 (靖第一八九二〇部隊)	略 略 歴
								20	7			
	8	8	8	6	5	3	2	11	25			
	31	15	12						10			
歴代戦隊長	復員	停戦	香川県高松飛行場へ移駐	東京都成増飛行場へ移駐	熊本県隈庄飛行場へ移駐	宮崎県都城東飛行場へ移駐	大阪府柏原飛行場へ移駐	北伊勢に於て編成完結	軍令陸甲第九三号に依り臨時編成			
												摘要

1773

	三代 少佐 坂元美岳	二代 大尉 末永正夫
		初代 少佐 代永兵衛

1774

		昭 19	自 19	至 20	20	20	年 月 日	飛行第一〇二戦隊 (靖第一八九二部隊) 略 歴
		7	11	4	6	7	略	
		25	10			30	歴	
	昭和二〇年七月一〇日軍令陸甲第一〇三号に依り一部の人員を飛行第一〇三戦隊に転属せしめ主力は復帰。							部隊長 少佐 垣見 馨

1775

昭和19年											略歴
20											
6	4	3	3	2	1	11	10	8	7	7	
中旬	下旬	下旬	下旬	28	下旬		下旬	25	25		略
戦力恢復のため東京成増飛行場に移駐	宮崎県都城飛行場に移駐	空中部隊の主力、知覚飛行場帰還	空中部隊の主力及び整備員の一部南西諸島徳ノ島飛行場に転進	鹿児島県知覚飛行場に移駐	第六航空軍司令官の隷下に入る。爾後沖繩作戦に従事	熊本県隈ノ庄飛行場に移駐	大阪府伊丹飛行場に移駐	爾後本土防空作戦に従事	北伊設亀山飛行場において編成完結	軍令陸甲第九三号に依り臨時編成	略
											摘要

				20
		8	8	7
		中 旬	15 上 旬	中 旬
		終戦に伴い復員	停戦	飛行第二〇二戦隊の半数の、人員、資材を転入して編成改正 淡路島飛行場に移駐
	戦 隊 長			
	少佐 東 條 道 明			

1777

昭										年	月	日	飛行才一〇四戦隊 (羽才一八九二三部隊)	略	歴	摘	費	
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11									
		8	11	11	10	9	9	9	9									8
						29	28	27		22								
<p>昭和一九、七、二五軍令陸甲才九三号により山口県小月飛行才四戦隊 において才一次編成完結</p> <p>小月出發、鮮端国境通過・奉天北 飛行場着</p> <p>深井子飛行場に移駐</p> <p>奉天省奉天飛行場に移駐</p> <p>鞍山飛行場に移駐爾後南満州の防衛に任ず</p> <p>軍令陸甲才九三号により編成完結</p> <p>鞍山において停戦</p> <p>下関港出發、釜山港上陸</p> <p>鮮満国境安東通過</p> <p>奉天省深井子着</p>																		

	昭
	20
	8
	22
八	<p>鞍山において武装解除</p> <p>武装解除後ノ軍の命により鞍山昭和製鋼所解体作業に従事す</p> <p>歴代部隊長</p> <p>初代 少佐 竜山 和</p> <p>二代 少佐 岡崎 彌助</p>

1779

至自										昭		年 月 日	飛行才一〇五戦隊 (誠才一九一〇二部隊) 略歴
21					20					19			
2	2	2	1	3	6	3	4	3	10	10	8		
25	24	20	1	15	20	26		24	17	10			
<p>復員完結</p> <p>田辺港上陸</p> <p>内地帰還のため基隆港出発</p> <p>才八飛行師団復員下令</p> <p>空中部隊の主力宜蘭に帰還</p> <p>台湾並びに南西諸島における天号作戦に参加</p> <p>空中部隊の主力石垣島に前進</p> <p>台中出發、宜蘭に移動</p> <p>台湾並びに南西諸島における防衛戦斗に参加</p> <p>昭和一九、七、二五軍令陸甲才九三号により台中において臨時編成完結</p>										略	歴		
												摘 要	

	<p>少佐</p> <p>吉田長一郎</p> <p>部長</p>

1781

										昭 19	年	飛行才一〇六戦隊 (靖(威)才一八九二四部隊) 略歴
12	12	12	12	12	12	11	11	10	8	月	略歴	
20	18	15	9	3	8	30	28	24	7	日		
<p>一部(西林中尉以下地上勤務者の一部)各務原出發</p> <p>屏東出發・「マニラ」着</p> <p>新田原出發・沖繩經由・屏東着</p> <p>松山出發・新田原着</p> <p>一部(大北大尉以下約四〇名)各務原出發・松山着</p> <p>屏東出發・「マニラ」着</p> <p>新田原出發・沖繩經由・台湾屏東着</p> <p>原出發・新田原着</p> <p>比島派遣のため主力(空中部隊約三分の二及び地上勤務者の主力)各務 編成完結</p>										昭和一九年七、二五軍令陸甲第九三号により各務原において一部(本部及 び第一中隊)編成	略	
第三次										第二次	第一次	摘要

		至自		至自		至自		至自		
				2019				2020		
3	3	2	2 1	2 12	1	2 1	1 1	12		
中	9	10	下		10	5 16	28 8	下		
<p>爾後屏東に於て待機</p> <p>西林中尉連絡のため屏東出發・「マニラ」着</p> <p>太田少尉以下地上勤務者約二〇名「マニラ」出發・徒步行軍により「ク ラク」經由「エチアゲ」着</p> <p>麦田中尉以下一五名「マニラ」出發・自動車により「エチアゲ」着</p> <p>戦隊長以下約一〇名「マニラ」出發・「ツゲガラオ」着</p> <p>比島「マニラ」「マリキナ」「エチアゲ」「ツゲガラオ」等に在りて</p> <p>比島作戦に参加</p> <p>空中部隊の主力「ツゲガラオ」より台湾小港に集結</p> <p>西林中尉以下地上勤務者の大半「マリキナ」に残置</p> <p>大北大尉（戦隊長代理）以下三名小港出發同日新田原着</p> <p>他の台湾所在人員は飛行第二戦隊長の統一指揮下に入る</p> <p>一部台北出發・新田原着</p> <p>その後八街に集結</p> <p>八街に集結</p>										
				戦隊長戦死	20、	1、	14			

	9	9	5	4	3	3	3	3
	20	2	中	20	26	25		
部隊長 中佐 須子正雄 (20、1、14戦死)	誠第一司偵隊に編入さる	爾後生存者は所在の地点で武装解除されたのち米軍収容所に収容さる	「マニラ」「エチアゲ」「マリキナ」残置者は終戦に伴い戦斗行動停止	部隊復帰を令せられ飛行第二戦隊の編成内に入らしめらる	福岡着	沖繩作戦のため八街出發	宇品上陸	台湾残置者全員基隆港出發

	12
	25
	屏 東 着

1785

					年月日		略歴	摘要
					昭和	年月日		
					19	7	飛行第一〇七戦隊 (燕第一八九三五部隊)	略歴
					19	11		
					20	2		
					20	7		
					20	10		
部隊長 中佐 道盛 清					軍令陸甲第九三号により臨時編成下令。 静岡県浜松において編成完結。 第五一教育飛行師団長の隷下に入り内地防空に任ず。 軍令陸甲第二四号により編成改正。 第六航空軍司令官の隷下に入る。 軍令陸甲第一〇三号により復帰下令。 浜松において復帰。			

至自										昭			年月日	略	略	略	略
20	20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19					
5	6	3	3	3	2	2	1	12	12	10	8	8					
26	20	26	中		28			10				下					
<p>第三中隊（長菱沼大尉）と基幹として飛行第一〇八戦隊爆撃飛行隊を編成</p> <p>台湾並びに南西諸島における天号航空作戦に参加。</p> <p>台北に移駐。</p> <p>南西諸島、上海、内地への空中輸送実施。</p> <p>飛行第一〇八戦隊整備隊の主力を第三〇七独立整備隊に転属。</p> <p>新田原、南西諸島、広東方面への空中輸送実施。</p> <p>沖繩、新田原、上海、宮古島への空中輸送実施。</p> <p>台湾塩水に移駐。</p> <p>以て中支杭州へ空中輸送実施。</p> <p>主力を以て数次に亘り比島「クラークフェルト」地区への空中輸送及び一部を</p> <p>昭和一九、七、二五軍令陸甲第九三号により台湾嘉義において編成完結。</p>																	
													摘要				

				昭
	21	21	20	20
	2	2	8	7
	27	22	15	1
戦隊長 中佐 古川日出夫	鹿兒島港上陸、同日復員。	内地帰還のため基隆港出発。	停戦。	戦準備実施。 爾後主力は南西諸島、上海、広東、福州への空中輸送、爆撃隊は訓練並びに作

八四

										昭	年 月 日	飛行第一〇九戦隊 (威第一一〇九一部隊) 略 歴
21	20	20	20	19	19	19	19	19	19	8		
3	8	7	3	12	11	10	8	31	25	略		
昭和一九、七、二五、軍令陸甲第九三号に依り昭南第三航空軍司令部に於て編 成着手 第一次編成完結。 第二次編成完結、昭南「カラン」飛行場に於て教育訓練に従事。 「スマトラ」島「バカンバル」飛行場に転進。 「タイ」國「アロールスター」飛行場に転進。 仏印「フーミ」西飛行場に転進。 南方軍第一、第二補給機空輸隊を指揮下に人らしめる。 昭和一九年陸軍機密第六一一号に基き南編成第九号に依り、南方軍第一、第二 補給機空輸隊を編合し、(輸送一個中隊を欠く)編成 仏印「フーミ」に於て武装解除										略	歴	
										摘要		

		21	21	21
		5	5	5
		13	12	6
	中佐 高梨 俊	復員。	内地 上陸。	西貢 出發。
	部隊長			

1790

		至自								昭	年月日	略歴
20	20	20	20	20	20	20	20	19	19			
8	8	4	3	3	3	2	2	12	10			
15	上	上	下	中	上	中	上	7				
停戦	州飛行場に転進準備。	部隊を作戰部隊と訓練部隊に分離し作戰部隊は健軍飛行場に訓練部隊は満洲金	沖繩攻撃続行。	隅庄飛行場に転進。	沖繩周辺の艦船攻撃。	太刀洗飛行場に転進。	浜松を基地として硫黄島周辺に於ける艦船攻撃。	立川を基地として硫黄島に対する空輸。	浜松を基地として「サイパン」攻撃。	浜松飛行学校において編成完結。		
												略歴
												摘要

	20	
	8	
	31	
戦隊長 少佐 草刈 武男	復員。	作戦部隊、訓練部隊共に隈庄に集結。

					昭							
					19							
	12	10	10	10	10							
	下	24	20	19	12							
五〇名)「ネグロス」島に残置	に転進・一部(長沢中尉以下一	「ルソン」島「マバラカット」	爾後「ネグロス」島「バコロド」を前進基地として「レイテ」作戦に参加	伊江島出發・台湾嘉義着	新田原出發・伊江島着	着	比島派遣のため明野出發、新田原	基幹として編成完結	軍令陸甲才一三五号により明野において明野教導飛行師団の人員資材を	空中移動	地上移動	略歴
										飛行才二〇〇〇戦隊		
										(靖(威)才一九〇二八部隊)		
										略歴		
										全員空輸		

				昭 20
	1		1	1
	31		下	上
州着	赤石少佐以下六〇名輸送機により「ツゲガラオ」出発・台湾			爾後「ルソン」島における航空作戦及び特攻作戦に参加 米軍「リンガエン」湾上陸
				飛行機全滅
				北部呂宋転進のため「マバラカット」出発 「エチアゲ」着 空中勤務者及び整備員の一部（赤石少佐以下六〇名）台湾転進のため「ツゲガラオ」に向け前進 一部（磯原大尉以下約一五〇名）台湾転進のため「アバリ」に向け前進したが、輸送不能のため「アバリ」に残置

						昭 20
	20					2
	9	5	3	3	3	28
	2	30	11	10	初	
部隊長名	<p>赤石少佐以下七名台北出發・新田原着</p> <p>その後所沢に移動</p> <p>及川大尉以下五三名基隆港出發</p> <p>門司港上陸</p> <p>所沢着</p> <p>昭和二〇、五、二軍令陸甲オ七七号により復帰</p> <p>(明野教導飛行師団、オ三〇戦斗飛行集団に転属)</p> <p>○「ネグロス」島(長沢中尉以下一五〇名)及び「アバリ」(榊原大尉以下約一五〇名)残置隊の行動</p> <p>終戦に伴い戦斗行動停止、所在の地点において米軍に武装解除された後收容所に收容さる。</p>					
中佐 高橋 武						

		昭		18		17		年
		10		10		9		月
		10		10		15		日
19	18	17	16	15	15	3		
奉天出發・柏着（第一中隊）		孫家出發・奉天着		中隊）		德島出發・柏着（本部才二、三		飛行才二〇四戰隊 （誠才一一〇七一部隊） 略歴
				地上部隊主力係家残留 （一部人員は空輸）		奉天出發・德島着		
				天着		濱江省係家に移駐		空中移動 地上移動
				南方転進のため係家出發同日奉		爾後同地において訓練教育を実施		
						満州竜江省鎮西において飛行才九戰隊及び飛行才二四陸隊人員を基幹として教導飛行才二〇四戰隊編成完結		略歴
								摘要

										昭
										18
8	7	2	11	11	10	10	10	10	10	10
2~1	30	22	6	5	29	28	25	24	23	23
転進のため「ラングーン」出發		戦隊と改称・人員増強し編成改正	三垂出發・仏印西貢着	屏東出發・海南島三垂着				新田原出發・屏東着	主力積出發・新田原着	戦力増強
	「ラングーン」出發（汽車行）	転進のため先発隊（約四〇名）	軍令陸甲才二四号により教導飛行才二〇四戦隊の称号を飛行才二〇四		釜山着	鮮満国境安東通過	残置主力南方転進のため係家出發		の人員転入増強	才二〇五飛行場大隊より約四〇名

196~2

							昭
							19
12	10	10	10	10	9	8	
6	11	10	6	2	29	6	
干名を含む「クラーク」出発 及び「ネグロス」に残留す	爾後比島航空作戦参加	「ラプアン」出発・同日「マニラ」着	昭南出発・同日「ラプアン」着	「スングェバタニ」經由昭南着	主力「バンコック」出発・同日	先発隊「バンコック」着 主力寺田大尉以下約一三〇名「ラ ングリーン」出発 主力「ヘホ」着（同地において行 動停止）	「バンコック」着（整備人員） 部空輸

												昭		
												18	19	
12	12	12		11	11	11	11		12	12	12	12	12	
9	5	1		28	27	24	7		15	11	10	9	8	
			ン」着	「バンコック」出発「ラングー	昭南出発・「バンコック」着	西貢出発・昭南着		爾後常陸において戦力恢復竝に訓練	厚木着後陸路常陸に集結	大分出発・同日厚木着	新竹出発・同日大分着	台中出発・同日新竹着	台南出発・同日台中着	同日台南着
昭南出発	昭南着						釜山港出発							
ブライ														

1799

196~3

				昭 18
	12	12	12	12
	25	25	20	18
		より「ラングーン」に空輸	右部隊の一部「スングパタニ」より「レグー」に空輸	同日「スングパタニ」着
			右部隊の一部「スングパタニ」より「レグー」に空輸	地上部隊の一部人員を空中輸送により「ブライ」出發
			地上移動の主力は左記三梯団に別れ「ブライ」出發	
			オ一梯団船舶輸送により「モールメン」上陸後陸路「ラングーン」	
			第二梯団船舶輸送により直接「ラングーン」へ	
			オ三梯団「ブライ」より直接陸路	
			(自動車)「バンコック」經由	

1800

						昭		
						20	19	18
2	2	2	2		2	2	1	12
28	27	24	10		9	3	5	30
<p>「ツーラン」出発・同日西貢着</p> <p>香港出発・同日「ツーラン」着</p> <p>台中出発・同日香港着</p> <p>那覇出発・同日台中着</p> <p>残置)</p> <p>(飛行隊長高橋大尉以下若干名</p> <p>新田原出発・同日那覇着</p> <p>陸出発・同日新田原着</p> <p>以下(整備員若干名を含む)常</p> <p>爾後「ビルマ」において航空作戦参加</p> <p>戦力恢復南方復帰のため戦隊長</p> <p>寺田大尉以下主力西貢転進のため</p> <p>自動車行軍により「ヘホ」出発</p> <p>地上移動部隊「ラングーン」着</p> <p>「ラングーン」へ</p> <p>右部隊の一部「スングバタニー」</p> <p>より「マウビー」に空輸</p>								

196~4

昭										
20			21							
3			2	8		7	7		7	4
中			28	15		5	4		3	中
爾後仏印において作戦参加			主力内地帰還のため基隆港出発			高橋隊合流沖繩作戦参加				
飛行隊長高橋大尉以下新田原出發（朝鮮、満州、支那経由）			田辺港上陸復員			台北出發・同日花蓮港着				
台北着			一部内地帰還のため基隆港出發			高橋隊合流沖繩作戦参加				
爾後同地において沖繩作戦参加			名古屋港上陸復員			台北出發・同日花蓮港着				
確号作戦参加のため（整備員若干を含む）西貢出發						高橋隊合流沖繩作戦参加				
同日香港着						台北出發・同日花蓮港着				
三村大尉以下約一三〇名西貢残置						高橋隊合流沖繩作戦参加				

					昭
		20		20	19
	8	7		9	1
	10	3		2	6
<p>歴代部隊長</p> <p>初代 少佐 田 淵</p> <p>二代 少佐 相 沢 帝四郎</p> <p>三代 中佐 波 谷 常 示</p>	<p>◎比島「マニラ」残置平山中尉以下の行動</p> <p>部隊主力戦力回復のため本隊出発後「マニラ」及び「ネグロス」付近に残留、爾後付近所在部隊に協力</p> <p>米軍比島上陸に伴い所在地上部隊の指揮下に入り戦闘参加</p> <p>終戦に伴い戦闘行動停止、所在地点において武装解除を受けた後米軍収容所に入る</p> <p>◎西貢残置三村大尉以下の行動</p> <p>部隊主力転進後西貢付近所在部隊に協力作戦参加</p> <p>残置人員は才一・二六飛行場大隊及び飛行才六四戦隊に転属す</p>				

昭										年 月 日	飛行才二〇八戦隊 (靖(洋)才八三二八部隊) 略歴	
17					16							略
12	12	12	12	12	11	5	5	3	3			
下	19	18	17	15		31	30	20	1	空中移動	地上移動	
各務原出發、浜松着	雁ノ巣出發、各務原着	大邱出發、雁ノ巣着	平壤出發、大邱着	南方派遣のため洮南出發平壤着	洮南において才三中隊と編成	編成完結、飛行才二〇八戦隊と改称	臨時編成(甲)下令	竜江省洮南に移駐	満州牡丹江省海浪飛行才一六戦隊において教導飛行才二〇八戦隊編成完結			
12下浜松着	下関港上陸	釜山港出發	鮮満国境安東通過	12 15 洮南出發								
										摘要		

昭	至自											昭				
18												18				
1	2	2	2	4	2	4	2	4	2	5	5	5	5	5	10	5
下	3	7	12	下	12	30	12	9	上	11	28	1	31			
浜松出發、横須賀着												同上				
横須賀において航空母艦飛翔に乗 船（人員飛行機共搭載）												横須賀港出發				
												「トラック」島上陸				
												「トラック」島出發				
												南太平洋作戦に参加				
												「ニューブリ テン」島「ラバウル」着				
												「ウエワク」上陸				
												「ラバウル」出發「ニューギニヤ」 島「ウエワク」着				
												「ウエワク」出發「フーツ」着				
												オニ次「ニューギニヤ」作戦に参加				

				至自	昭
				19 18	19
5	5	4	4	4 3 11	3
16	8	下	上	3~5 25 1	10
<p>「ダバオ」出発「ハルマハラ」島「</p> <p>「マニラ」出発「ダバオ」着</p> <p>嘉義出発、比島「マニラ」着</p> <p>台湾嘉義着</p> <p>戦隊長以下三六名「マニラ」出発、</p> <p>ルランジャ」に残置</p> <p>一部（徳光中尉以下約70ノ80名）「ホ</p> <p>ルランジャ」に残置</p> <p>め台湾へ）</p> <p>出発「マニラ」着（飛行機受領のた</p> <p>戦隊長以下三六名「ホルランジャ」</p> <p>オ三次「ニューギニヤ」作戦に参加</p> <p>「フイツ」出発「ホルランジャ」着</p> <p>一部（風間大尉以下約九〇名）「フ</p> <p>イツ」に残置</p>					
				飛行機全滅	
				飛行機受領	

										昭					
										19					
										20					
9	5	3	1							1	11	8	7	7	
2			13	中							10	28	20	下	18
<p>ガレラに着</p> <p>「ガレラ」出発「メナド」着</p> <p>「メナド」出発比島「リバ」着</p> <p>軍令陸甲オ九三号により「リバ」において飛行オ三四戦隊繰入</p> <p>「リバ」出発「カロカン」着</p> <p>戦隊長以下一四名「カロカン」出発</p> <p>北部「ルソン」島「ツゲガラオ」転</p> <p>進、約二〇〇名「マニラ」地区に残</p> <p>置</p> <p>「ツゲガラオ」出発、台湾屏東着</p> <p>屏東出発、所沢着</p> <p>昭和二〇、五、二軍令陸甲オ七七号により復帰</p> <p>◎南方残置隊の行動</p> <p>終戦に伴い戦行動停止、爾後生存者は所在の地点で武装解除された</p>															

のち米軍収容所に収容さる
歴代部隊長名 初代 大佐 長 沢 憲次郎 終戦時 中佐 加 島 誠 輝

昭		年 月 日	略 歴	摘要
20	16			
8 8	11 9 7			
31	15	30		
<p>歴代戦隊長</p> <p>初代 少佐 泊 重 愛</p> <p>二代 少佐 村 岡 信</p>			<p>豊岡航空士官学校に於て飛行第一四四戦隊として編成完結 調布移駐</p> <p>編成改正により飛行第一四四戦隊を飛行第二四四戦隊に改変す</p> <p>爾後調布、浜松、鹿児島、八日市等に於て防空並びに特別攻撃隊の直接掩護に 任ず</p> <p>八日市に於て停戦 復員</p>	
<p>(飛行第一四四戦隊長)</p> <p>(飛行第二四四戦隊長)</p>				

	<p>三代 少佐 藤田 隆 四代 少佐 小林 照彦</p>
	<p>(飛行第二 四四戦隊長)</p>

								昭	年 月 日	略 略 歴	
19	18	18	18	17	17	17	17	6			<p>飛行第二四六戦隊 (天鷲第一九一九六部隊)</p> <p>略歴</p>
1	12	12	4	11	8	8	30	<p>兵庫県加古川において編成完結。 第一八飛行団長の隷下に入り中部地区の防空に任ず。 一ヶ中隊を北海道千歳に派遣。 主力は兵庫県尾上に移駐。 千歳派遣の一ヶ中隊尾上に帰還。 兵庫県伊丹に移駐。 部隊主力(本部一ヶ中隊司令三機)台湾屏東に派遣。 軍令陸甲第一二二一号により人員資材を第二四六飛行場大隊等に転出して編成改 正。 編成改正完結。 第一航空軍司令官の隷下に入る。</p>			
1	27	不明	不明	不明	不明	不明	不明		摘要		

	至自		至自		至自		昭	
	20	20	20	20	20	19	19	19
	8	8	8	2	2	11	11	3
	31	15	15	16	15	不明	1	不明
隊長 中佐 官本 武夫	復員。	大阪大正飛行場において停戦。	中部地区の防空に任ず。	大阪移駐（移動状況不詳）	比島作戦参加。	比島に転進。	部隊は比島作戦参加のため台湾着（移動状況不詳）	台湾派遣中の主力は大阪柏原に移駐。

					昭	年 月 日	飛行才二四八戦隊 (靖(洋)才一五三八九部隊) 略歴				
					17						
10	10	12	8	8	8						
11	10	3	15	10	10	略歴					
屏東着・主力に合流	輸送機により雁ノ巣出發、台湾	一部(本部及び整備員の一部)	力芦屋出發・台湾屏東着	「ニューギニヤ」派遣のため主	昔屋において才三中隊を新たに編成		爾後北九州要地防衛に任ず	芦屋(才二中隊雁ノ巣に分屯)に移駐	編成時 本部及び才一、二中隊	小月において飛行才四戦隊の人員資材を基幹として編成完結	空中移動
							摘要				

								昭 18	
11	11	11	10	10	10	10	10	10	
2	1	30	25	24	23	22	15		
ギニヤ」島「ウエワク」に前進	「ホーランジャ」出発「ニュー		ヤ」着	「アンボン」出発「ホーランジ	「メナド」出発「アンボン」着	「メナド」着	「ダバオ」出発「セレベス」島	「マニラ」出発「ダバオ」着	屏東出発・比島「マニラ」着
									地上勤務員の主力（二〇一名）で らごあ丸に乗船、呉港出発 土佐沖において敵潜水艦の魚雷攻 撃をうけ海没、大部生死不明生存 者笹馬軍曹以下五名才二四八飛行 場大隊に転属

至自至自至自										至自至自至自									
19 18																			
8	8	6	6	4	4	3			3			3	2	3	1	1	11	11	11
20	19	24	23	23	22	16			15			11	15	10	11	10	26	25	3
<p>「ラム」「マークム」河谷航空撃滅戦参加</p> <p>「ラム」「サラモア」地上作戦直接協力</p> <p>「ニューギニヤ」島における各種航空作戦参加</p> <p>飛行才五九戦隊より宮崎少尉以下六六名転入</p> <p>「ウエワク」出発「アイタベ」移</p> <p>駐・一部（中村少尉以下三名「ウエワク」残置）</p> <p>「アイタベ」出発「ホーランジャ」に移駐</p> <p>一部（小川少尉以下四八名）「アイタベ」に残置（その後全員戦死）</p> <p>「ニューギニヤ」島における各種航空作戦参加</p> <p>「ホーランジャ」「サルミ」間転進作戦参加</p> <p>「サルミ」地区守備作戦参加</p> <p>「ニューギニヤ」島において現地復帰（戦隊長以下約二五名）</p>																			
飛行機全滅																			
19 4 22																			

<p>(昭和一九、七、二五軍令陸中才九三号により戦隊長以下空中勤務者を才一航空軍に、その他の人員及び資材を管理官の定むる部隊に転属) 爾後生存者は一部内地に帰還したが、他は所在の地点において地上部隊の指揮下に入り現地自治しつつ地上作戦に参加し、終戦に伴い戦斗行動を停止し米蒙軍収容所に収容さる</p>	<p>歴代部隊長名</p> <p>初代 少佐 牧野靖雄</p> <p>二代 少佐 村岡信一(戦死)</p> <p>三代 少佐 黒田武文</p>